

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成20年2月21日(2008.2.21)

【公開番号】特開2006-222883(P2006-222883A)
【公開日】平成18年8月24日(2006.8.24)
【年通号数】公開・登録公報2006-033
【出願番号】特願2005-36513(P2005-36513)
【国際特許分類】

H 0 4 N 5/91 (2006.01)

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

H 0 4 N 101/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/91 J

H 0 4 N 5/225 F

H 0 4 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月26日(2007.12.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像を記録するための記録手段と、

1 回の手動操作に応答して複数回の撮影動作を繰り返し行い、複数の画像を取得する連写手段と、

上記連写手段で取得された複数の画像を一時的に格納するための一時格納手段と、

上記一時格納手段に格納されている複数の画像の中から参照画像を設定するとともに、該参照画像に対して一致度の低い他の画像を 1 つ以上選出する選出手段と、

上記参照画像と上記選出手段で選出された画像を上記記録手段に記録するように制御する記録制御手段と、

を具備することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項 2】

上記選出手段は、上記参照画像と上記他の画像の対応する所定領域についての一致度を判定することを特徴とする請求項 1 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 3】

上記所定領域は、主要被写体が存在する確率の高い領域を含むことを特徴とする請求項 2 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 4】

上記所定領域は、中央部周辺の領域を含むことを特徴とする請求項 2 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 5】

上記選出手段は、上記参照画像と上記他の画像の不一致画素を検出し、この不一致画素が占める割合によって上記一致度を判定することを特徴とする請求項 1 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 6】

上記選出手段は、上記参照画像と上記他の画像の画素毎の差を演算し、その演算結果が

ゼロにならない画素を検出することにより、上記不一致画素を検出することを特徴とする請求項 5 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 7】

上記記録制御手段は、さらに上記連写手段によって最後に取得された画像を上記記録手段に記録するように制御することを特徴とする請求項 1 に記載のデジタルカメラ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記の目的を達成するために、本発明の第 1 の態様によるカメラは、画像を記録するための記録手段と、1 回の手動操作に応答して複数回の撮影動作を繰り返し行い、複数の画像を取得する連写手段と、上記連写手段で取得された複数の画像を一時的に格納するための一時格納手段と、上記一時格納手段に格納されている複数の画像の中から参照画像を設定するとともに、該参照画像に対して一致度の低い他の画像を 1 つ以上選出する選出手段と、上記参照画像と上記選出手段で選出された画像を上記記録手段に記録するように制御する記録制御手段とを具備することを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

この第 1 の態様によれば、連続撮影で得られた画像のうちで、設定された参照画像とこの参照画像に対して一致度の低い他の画像が記録手段に記録される。これにより、高速連写によって多数の画像が撮影されても、それを効率良く記録手段に記録することができる。